

川事 奈商 神ト

マダイなど資源増大へ

神ト

神奈川県栽培協に寄付

の場が失われていること、岩場のカジメなどの海藻がアイゴやウニの食害がひどいことなどを説明した。

神奈川県と上野代表が寄付を続けているのは、同社がプレジャーボートの販売を主事業とし、購入者の主な目的は釣りであることから、公益法人として同協会が行っている水産資源の維持増大に向けた取り組みがマリントレジャーの楽しみを支えてくれると認識しているため。

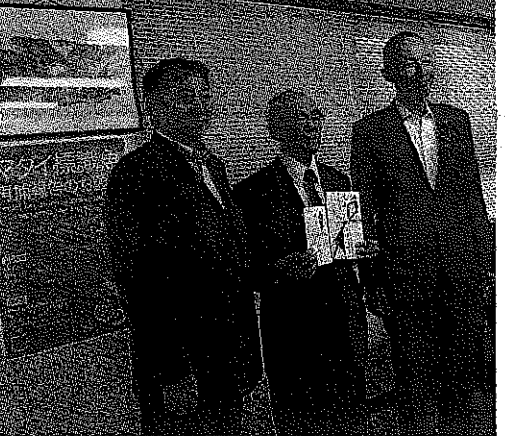
【三崎】K.Tグループおおよび上野代表が栽培漁業の推進のため寄付をするの

流について「東京湾から相模湾にかけて実施しているが、これに加え釣具団体が東京湾にマダイ種苗を放流してくれたこと

浦市の神奈川県栽培漁業協会を訪れ、資源増大に役立ててほしいと10万円を寄付した。またK.Tグループの上野建彦代表も

だけでなく湾奥でも大きく育ったマダイが漁獲されるようになった」ことを説明。

さらに、漁業者が漁獲し遊漁者が釣り上げる再捕状況を調査すると「遊漁者が釣り上げるマダイの40～50%は当協会が種苗放流したもの。しかも、遊漁者の釣り上げる量が漁業者より多いことが分かっている」と説明した。



寄付を手にする今井専務（中央）と黒田社長⑥、上野代表

また、県内の湾内でアマモが姿を消し、魚介類の産卵場や幼稚仔の成育